

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

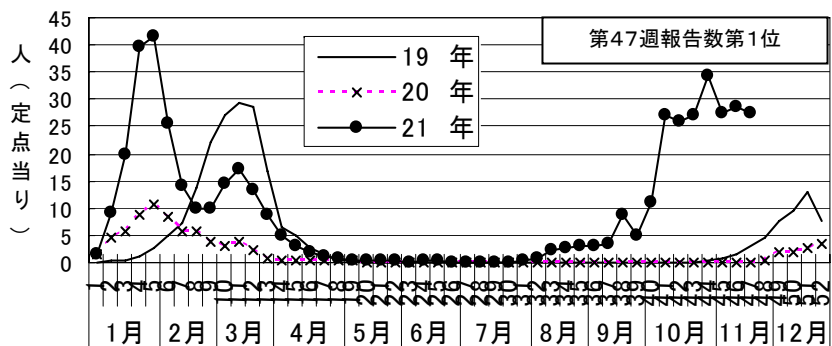


KAWASAKI CITY

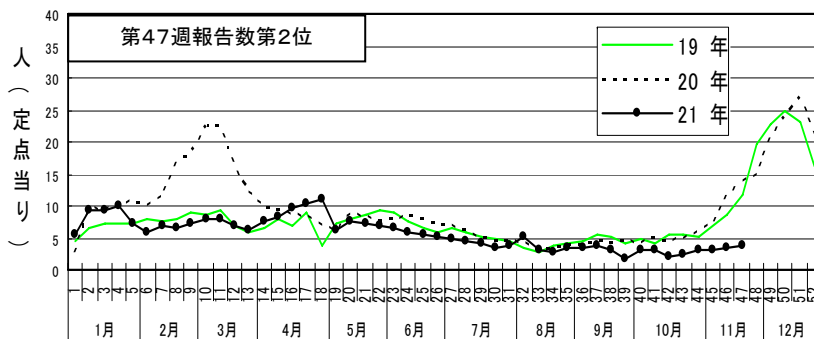
平成21年11月16日（月）～11月22日（日）〔平成21年第47週〕の感染症発生状況

第47週で報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) 同報告数でA群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び突発性発疹となっています。インフルエンザは、定点あたり27.39と前週より報告数はやや減少しました。ただし、川崎市全域では減少していますが、中原区や多摩区などの地域では患者報告数が増加しています。また、年齢別では、0～4歳の患者報告数の増加傾向が続いており、第47週では10～14歳の患者数を上回りましたので、患者の年齢別発生状況については引き続き注意が必要です。

インフルエンザ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)

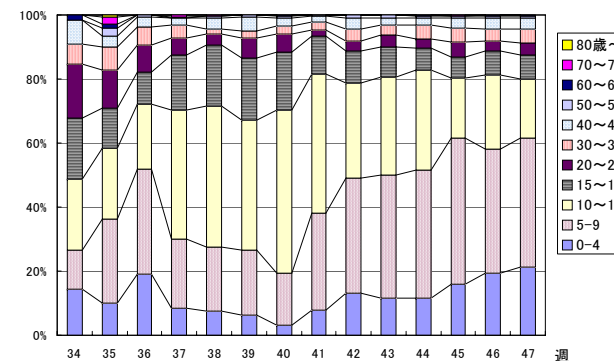


インフルエンザ患者の流行状況について

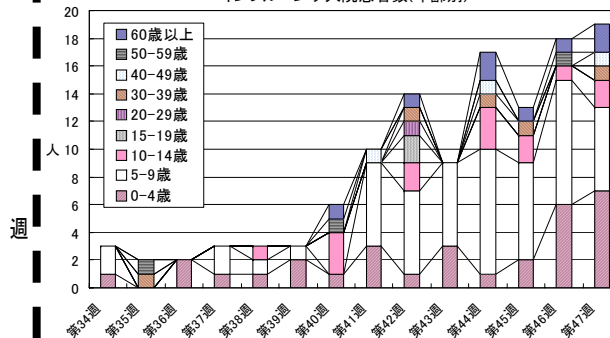
定点医療機関から報告があるインフルエンザ患者数は、第41週以降ほぼ横ばいの状況（第44週がピーク）が続いておりますが、年齢別では、10～14歳までの患者割合が減少しており、0～9歳までの患者割合が増加しています。第47週については、報告患者総数が1479人で、うち9歳以下の患者が911人と全体の約62%となっています。

また、新型インフルエンザと診断された入院患者の数及びその臨床情報等を把握するために、7月24日から入院患者の症状等の情報収集をしていますが、第47週までに122名の入院報告があり、男性75名、女性47名となっています。下のグラフにあるように、入院患者でも0～4歳までの小児患者が増加していますので、うがい・手洗いなどをしっかり行い、インフルエンザから身を守りましょう。

川崎市インフルエンザ患者年齢別割合



インフルエンザ入院患者数(年齢別)



みんなで心がけよう！せきエチケット！！

～病気をうつさない思いやり～

せきをするときは、人から離れ、口や鼻をティッシュやハンカチで押さえるようにして、ウイルス等が飛散しないように心がけましょう。
《あとで手洗いも忘れずに！》

